

北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）について

【説明用資料】

目次

- | | |
|------------------------|----------|
| 1 北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）の概要 |P1 |
| 2 札幌市内の工事進捗 |P3 |
| 3 新幹線工事に伴う発生土 |P7 |
| 4 手稲山口地区における地域振興 |P11 |
| 5 広報啓発活動・要望活動 |P12 |



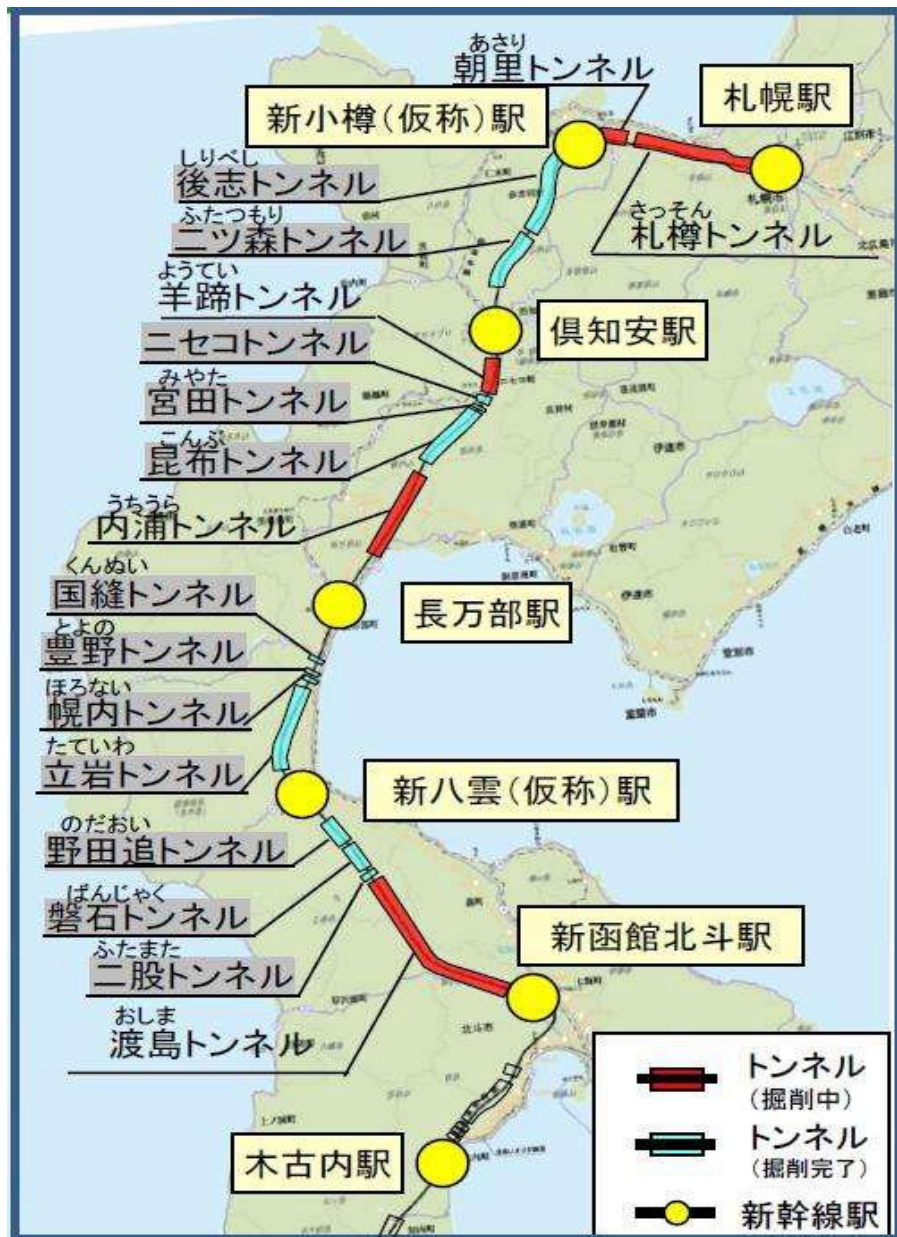
提供：JR北海道

1. 北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）の概要

(1) 北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）の概要

【線区概要図】

(R8.7 鉄道・運輸機構HP「事業の進捗状況 最新の工事進ちょく状況」より抜粋)



□ 工事延長 約211.9km

- 路盤 : 約 7.3km (約3%)
- 橋梁 : 約 5.2km (約3%) 全109箇所
- 高架橋 : 約 30.4km (約14%)
- トンネル : 約169.0km (約80%) 全17箇所

※括弧内は、工事延長に占める割合

□ 完成・開業時期

令和7年3月14日、国の有識者会議が、「現時点では、おおむね2038年度末頃の完成・開業を見込み、工程への影響が大きいさらなるリスクが生じた場合、さらに数年単位で遅れる可能性がある」との検討結果を公表。

口 総工事費

約23,159億円（R5.3工事実施計画の変更認可）

令和7年12月19日、鉄道・運輸機構から国に対して、事業費の精査をした結果、近年の工事資材価格等の上昇等の要因により、現時点での想定では最大1.2兆円の事業費の増加のおそれがある（※約35,200億円）ことが見込まれると報告。



- ・国の有識者会議において精査を行っている。
- ・事業費増嵩による地方負担は未だ示されていない。

1. 北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）の概要

（2）北海道新幹線札幌延伸による経済波及効果

（R8.5 北海道新幹線建設促進期成会 令和8年度総会資料より抜粋）

○建設投資効果

資材調達等による企業の売上げや雇用等の増加への効果

新幹線建設総事業費 ※	生産（経済）波及効果	雇用創出効果
21,927億円	39,277億円	311,984人

※：令和8年3月時点における現認可額23,159億円のうち、用地取得費を除く建設工事費

○開業による経済波及効果（2038年度末開業と仮定）

観光客等、交流人口の増加に伴う消費支出への効果

総消費額	生産（経済）波及効果	雇用創出効果
1,176億円/年	1,820億円/年	15,580人/年

2030年度末から開業が遅れる場合にあっても、札幌開業時における経済効果は大きい



【主な増加の要素】

- 経済成長率がそれまでの減少傾向から2010年以降増加に転じ、将来に向けても成長が見込まれることを反映
- インバウンド需要の全国的な増加傾向（全国：1,000万人(2012年)⇒4,000万人超へ4倍以上）を踏まえ、新たに入国外国人数を予測に活用
- 新幹線の運行速度が260km/hから320km/hへ引き上げられることを見込んだ所要時間の短縮

令和8年5月25日、北海道新幹線建設促進期成会の令和8年度総会で札幌延伸による経済波及効果の調査結果が公表。

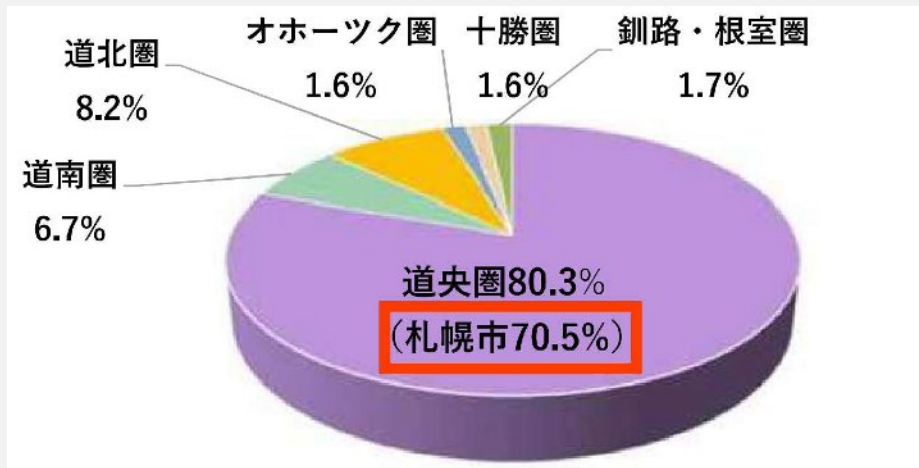
□ 調査概要

調査実施年度：2025年度（令和7年度）

調査実施団体：北海道新幹線建設促進期成会

□ 開業による経済波及効果

経済波及効果は道央圏が最も大きく、特に札幌市が全道の約7割（1,283億円）を占めることが報告。



【経済効果の圏域別構成】

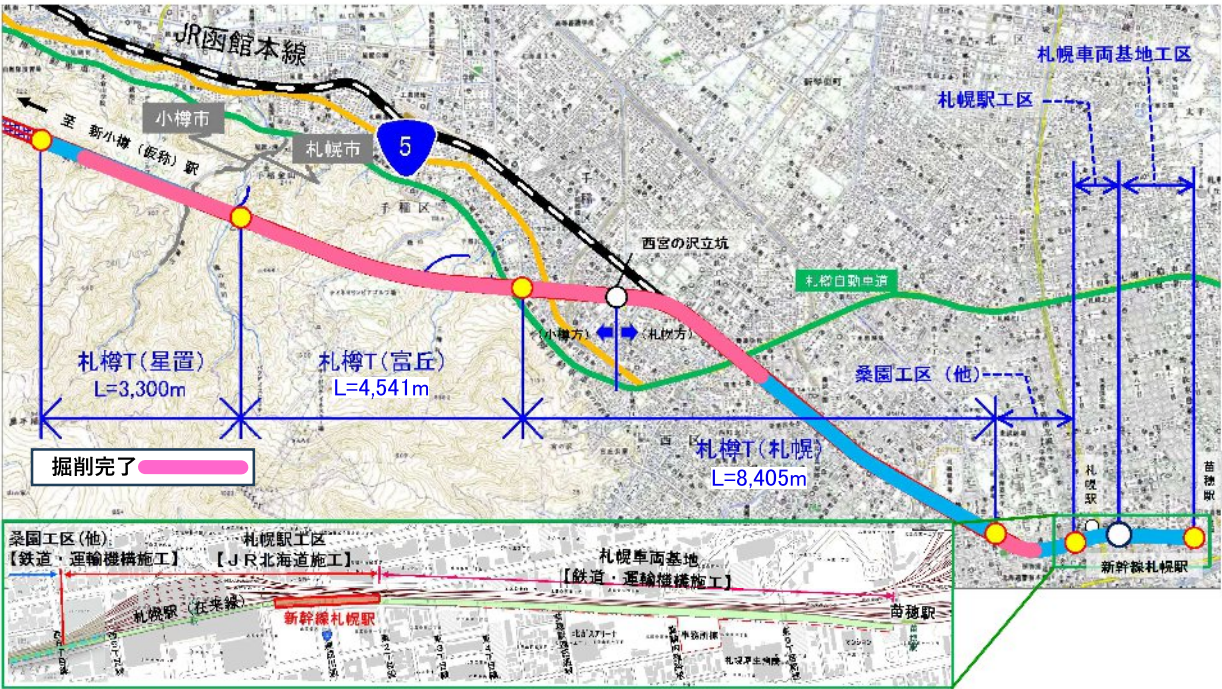
□ 更なる効果

ラピダスの立地・本格稼働をはじめ、GXやAI-DXプロジェクトの始動など、人的・物的交流の活性化が見込まれ、新幹線の役割はますます高まっている。

2. 札幌市内の工事進捗

(1) 札幌市内の工事概要

【札幌市内の工区割図】

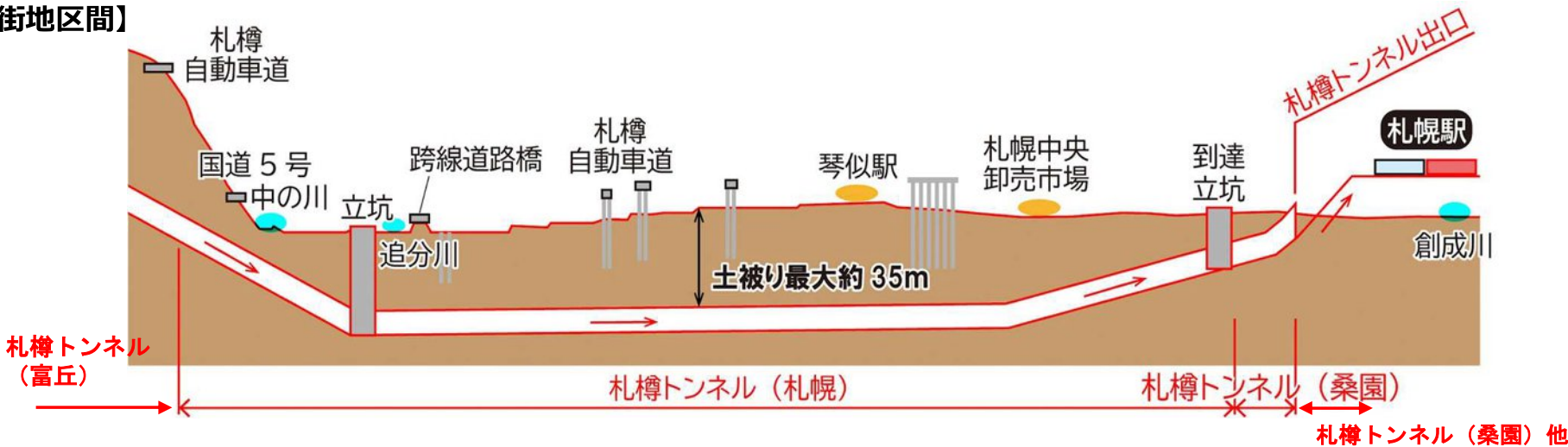


【市内工事の進捗状況（令和8年7月1日現在）】

トンネル区間			延長 (m)	掘削延長 (m)	掘削の 進捗率
札幌 トンネル	星置	NATM	3,300	2,923	89%
	富丘		4,541	4,520	99%
	札幌	シールド工法	8,405	3,628	43%
	桑園	開削工法	346	221	64%
地上区間			現在の工事状況		
札幌トンネル桑園工区（他）			桁架設工事等		
札幌駅工区			新幹線札幌駅の駅舎建築工事等		
車両基地工区			桁架設工事、建築上屋工事等		

※桑園工区の掘削延長は、トンネル区間の延長を示している

【市街地区間】



2. 札幌市内の工事進捗

(2) 直近の工事状況写真

【札幌トンネル（星置工区）】
手稲区金山付近（2026年7月）



【札幌トンネル（札幌工区）】
西区発寒付近（2026年5月）



【札幌駅高架橋】
中央区北5条西1丁目付近（2026年5月）



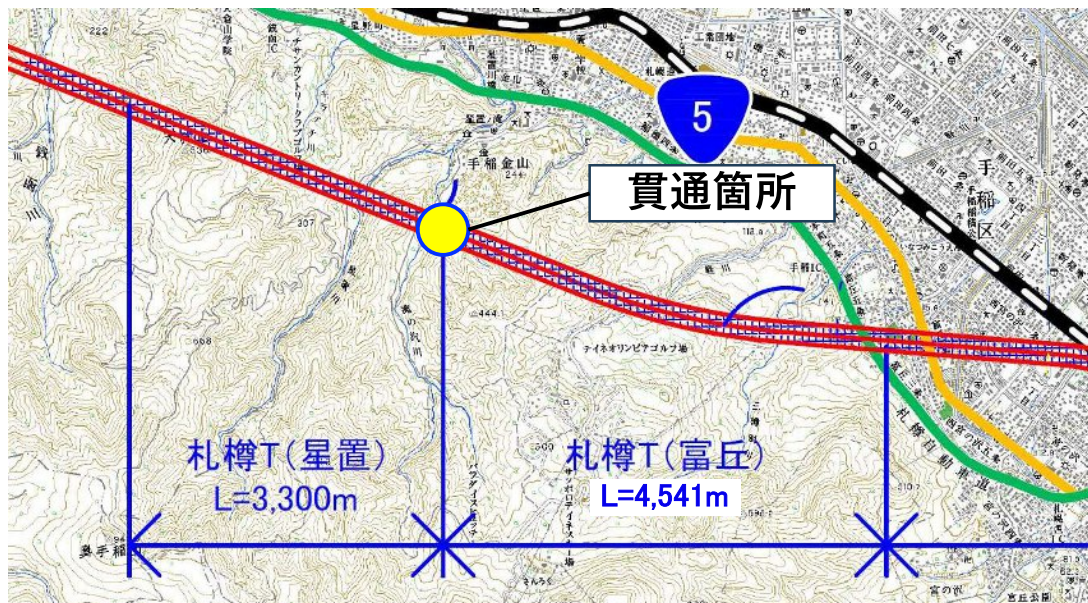
【車両基地工区】
東2丁目線（2026年7月）



2. 札幌市内の工事進捗

(3) 星置工区・富丘工区の状況

- 令和8年6月10日：星置工区と富丘工区の境界が貫通。
- 令和8年7月27日：貫通式。主催者である施工業者が地域の方々や近隣の小学生を招待。



【位置図】



【貫通状況】



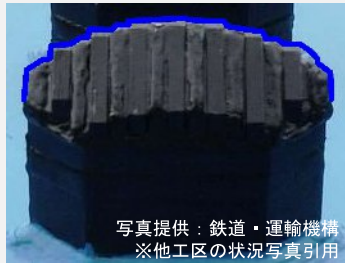
【貫通式開催状況】

2. 札幌市内の工事進捗

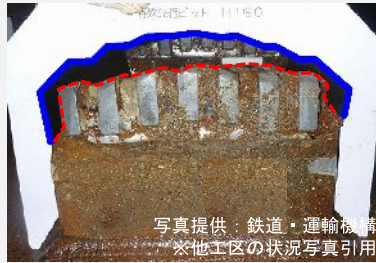
(4) 札幌工区の状況

(R8.3 鉄道・運輸機構HP「事業の進捗状況 過去の工事進ちょく状況」より抜粋)

- 令和6年3月より、西宮の沢の発進立坑から札幌駅方向への掘削を開始し、令和8年7月1日時点で立坑から約2 kmを掘削完了。
- シールド機の点検により、一部のビットで摩耗が進んでいることを確認。
- その他のビットも摩耗していることが想定。
- 残り区間の掘削を円滑に進めるために、ビット交換を実施する計画。



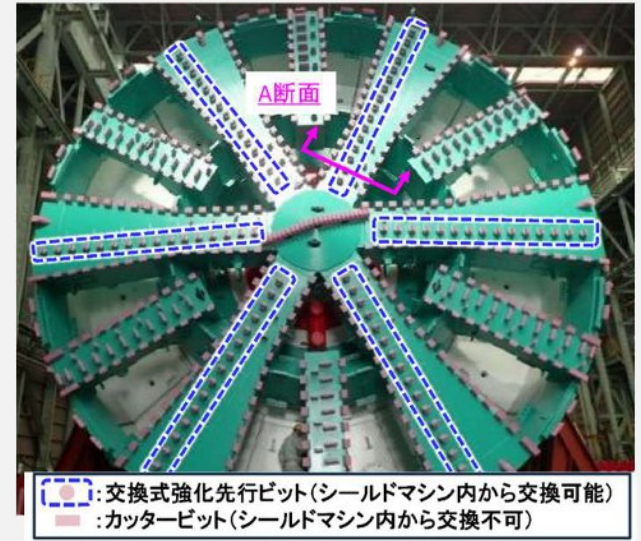
【掘削前ビット状況】



【摩耗したビット状況】



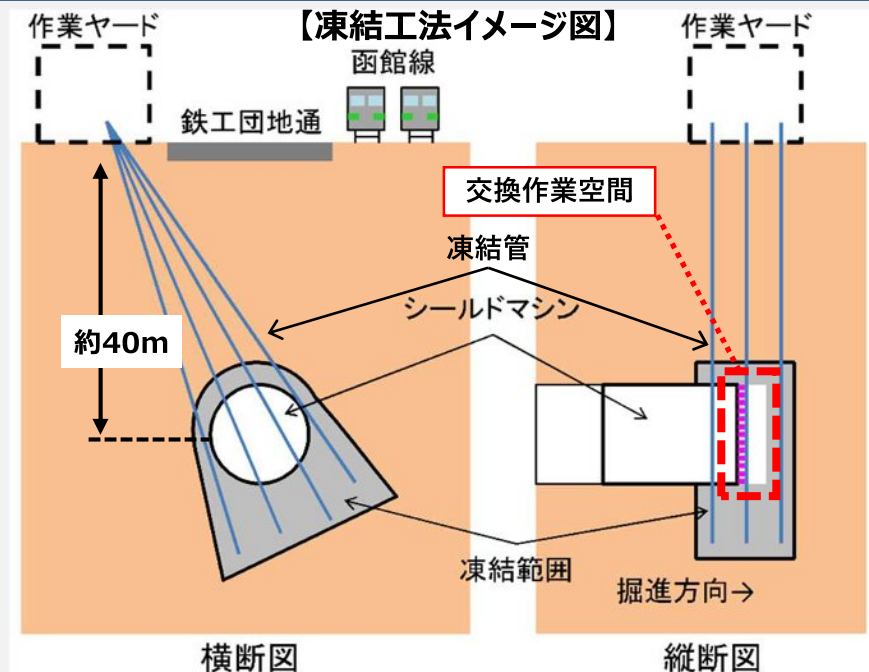
【位置図】



【ビット装備状況】

□ ビット交換作業

- 作業位置は発寒中央駅付近。
- シールド機前面に作業空間を設けて、その空間に作業員が入りこみ交換作業を実施。
- 作業空間を設けるにあたり、地盤の崩壊を防ぐための地盤改良が必要（凍結工法）。
- 作業ヤードから地中に凍結管を埋設し、シールド機周辺の地盤を凍結させ、内側からシールド機の前面を人力で掘って作業空間を設ける。
- 令和8年度冬頃までにビット交換位置に到達後、一時停止の上、作業を実施する見込み。



3. 新幹線工事に伴う発生土

(1) 対策土の概要

- ❑

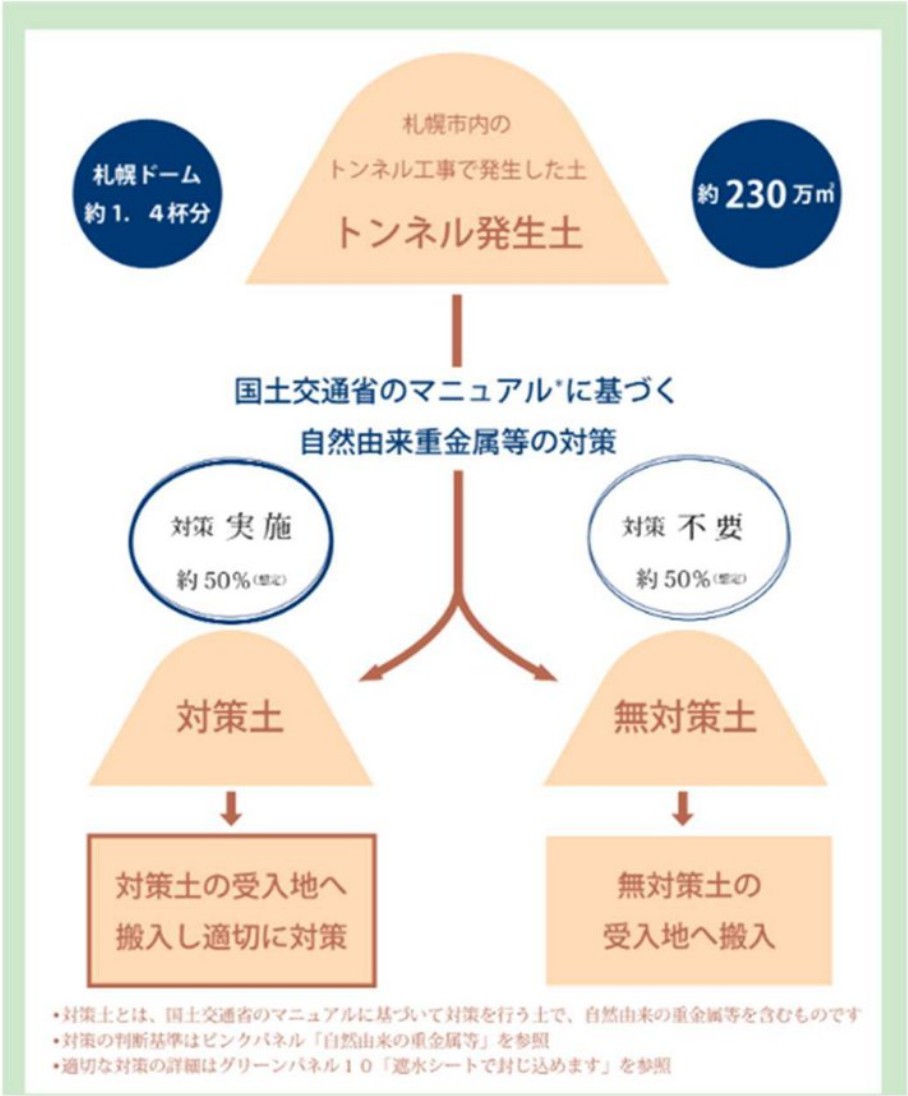
トンネルから発生する土は、土の中に含まれている自然由来の重金属等の量の基準を超えるものについて適切な対策を講じることが必要（『対策土』と呼んでいる）。
- ❑

札幌市内で発生した対策土は、手稲山口受入地へ運搬し、二重の遮水シートで封じ込むなど適切に対策を実施。

【手稲山口受入地への運搬に至る主な経緯】

R2.6.27～30	札幌トンネル掘削土受入候補地（手稲山口地区）説明会（第1回）
R2.11.7～9	トンネル掘削土受入候補地（手稲山口地区）に関するオープンハウス（第1回）
R2.12.18～20	トンネル掘削土受入候補地（手稲山口地区）に関するオープンハウス（第2回）
R3.3.28, 29	受入候補地に関する説明会（第2回）
R3.4.10, 11	トンネル掘削土受入候補地（手稲山口地区）に関するオープンハウス（第3回）
R3.6	受入協定締結
R3.12.13	対策土受入れ開始

（ R2.12 トンネル掘削土受入候補地（山口地区）に関するオープンハウス（第2回）資料より抜粋）



【札幌市内のトンネル発生土】

3. 新幹線工事に伴う発生土

(2) 受入地の概要

【手稲山口受入地の状況】

- ❑ 札幌市内の新幹線関連の発生土を受入
- ❑ 手稲区手稲山口の市有地
- ❑ 総面積約210,000m²
- ❑ 盛土高さ最大16.5m（予定）
- ❑ 令和3年12月から受入開始

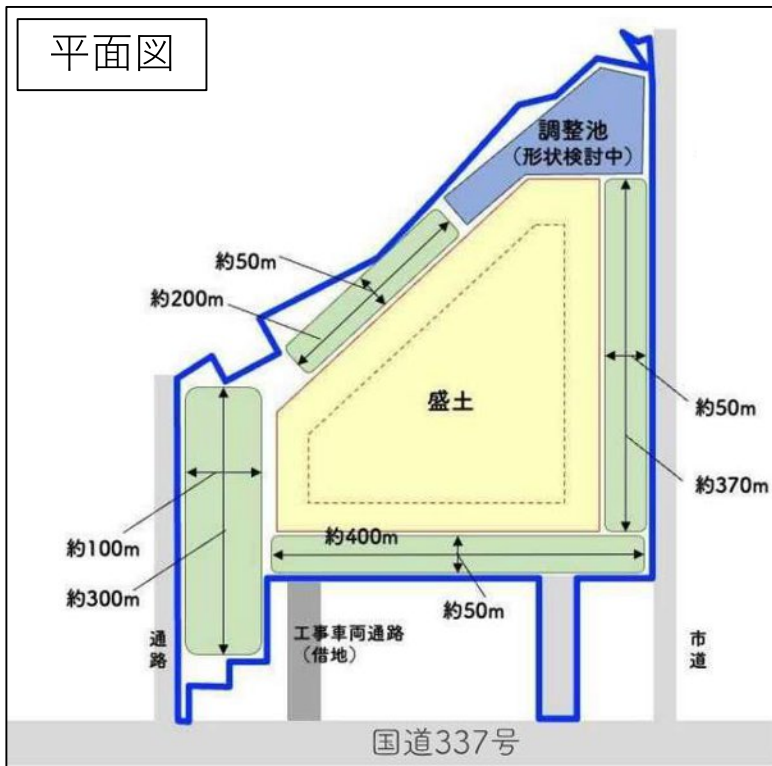
【受入容量・現在の受入量】

- ❑ 小段、吸着層等により、実際に受入可能な容量は、
当初想定 90万m³ → 受入可能土量 約83万m³
- ❑ 令和8年7月1日現在で対策土73万m³運搬完了

位置図



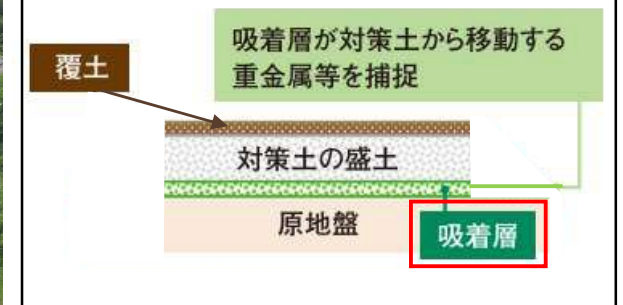
平面図



手稲山口受入地全景（2026年7月）
鉄道・運輸機構 提供



吸着層の例



小段

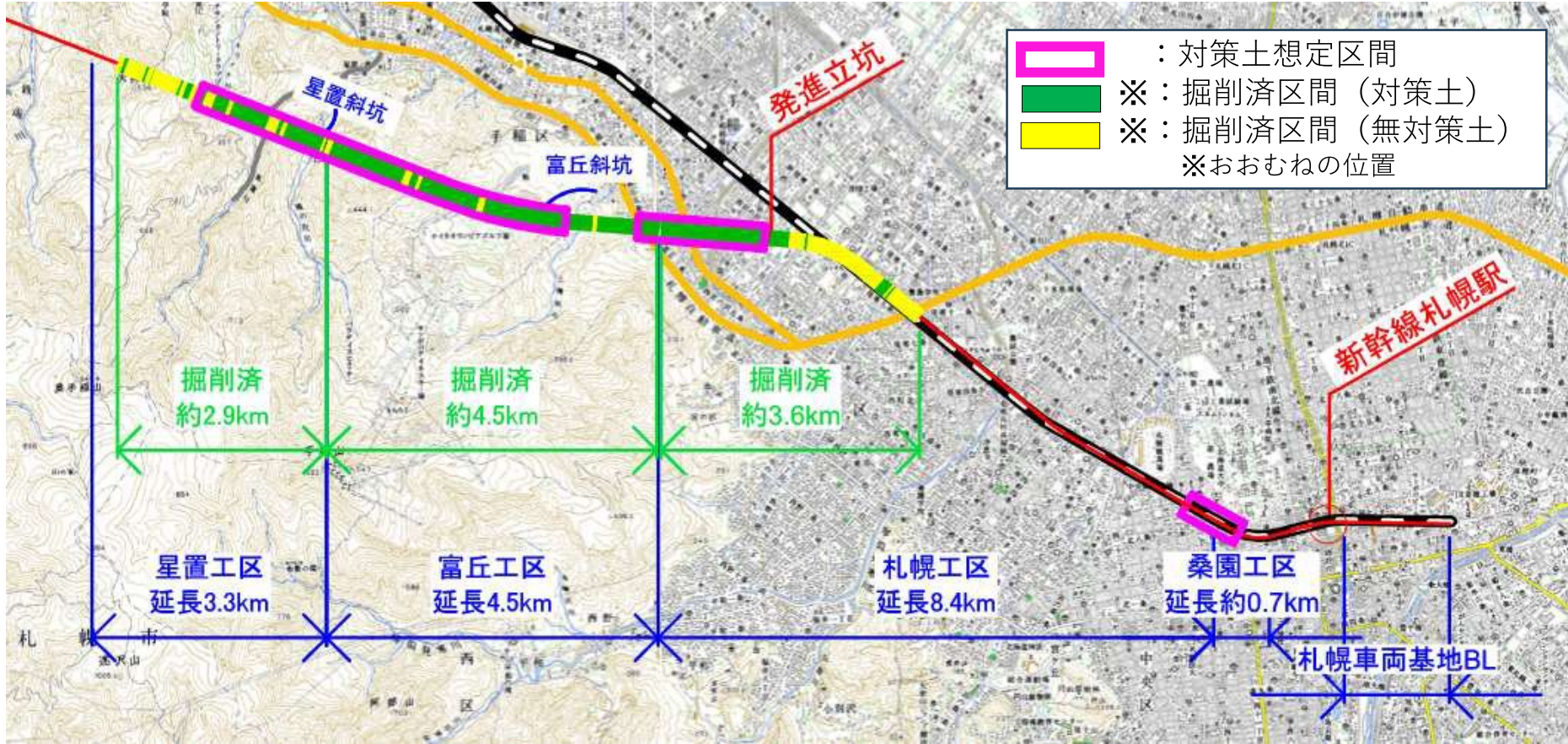
断面図



3. 新幹線工事に伴う発生土

(3) 対策土の発生状況と運搬状況

【対策土発生状況】



【対策土運搬状況】

単位：万 m^3

対策土量運搬実績	星置	富丘	札幌	桑園	車両基地	合計
手稲山口	21	49	0	0	3	73
張碓	3	0	0	0	0	3
中間処理	0	0	21	0	0	21
掘削済対策土量合計	24	49	21	0	3	97

対策土発生状況

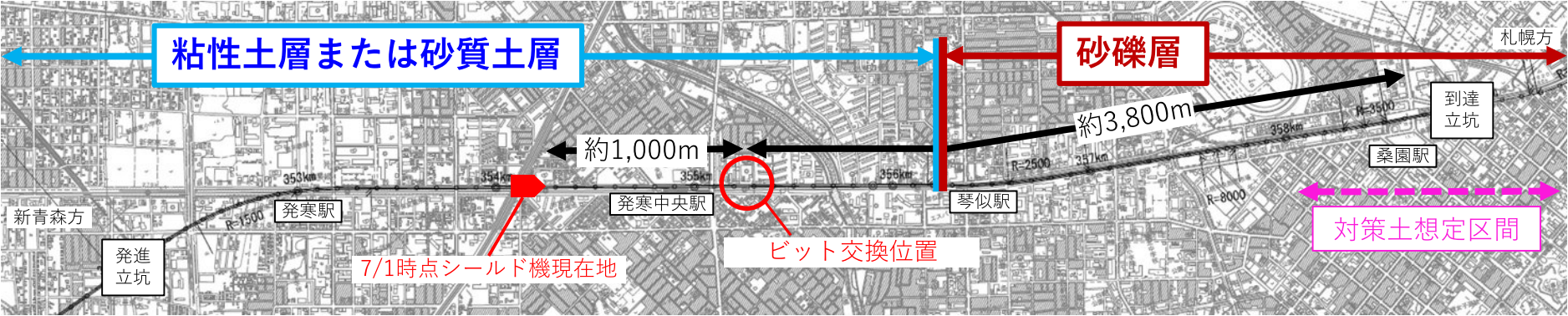
□ 対策土想定区間からは概ね想定通りの対策土が出現している状況

対策土運搬状況

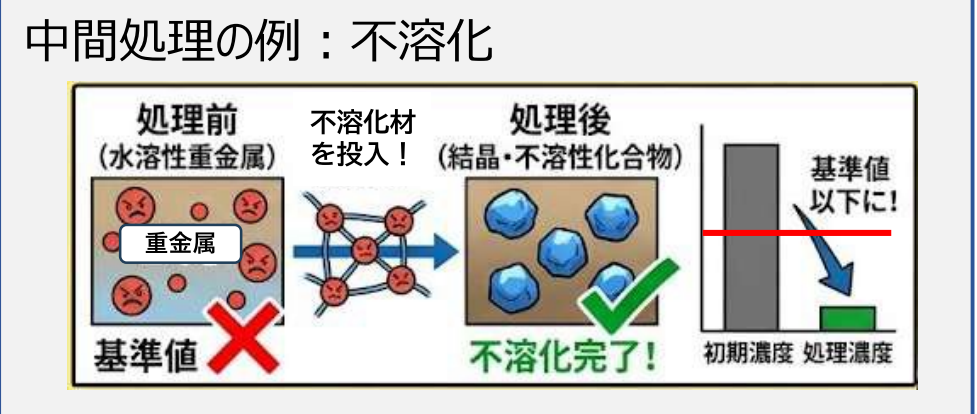
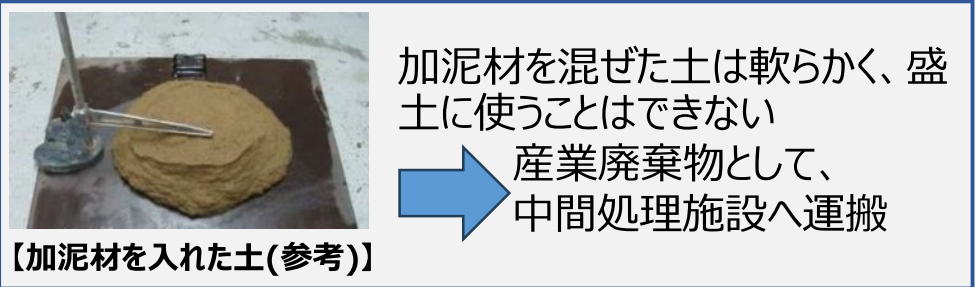
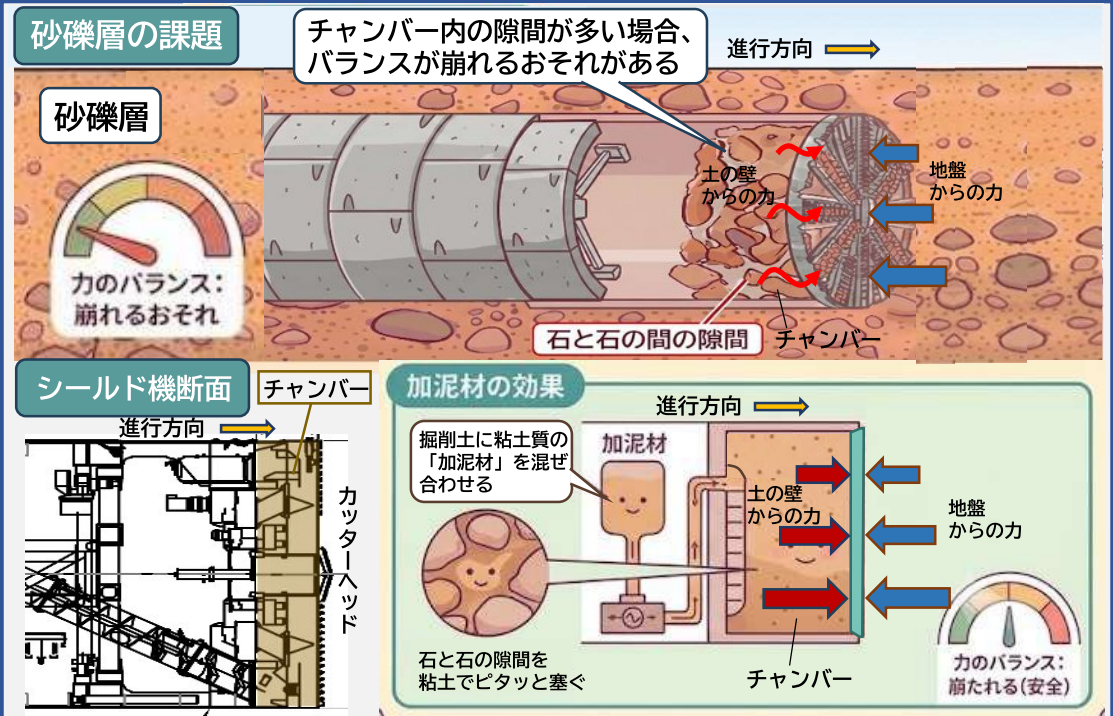
- 想定の対策土115万 m^3 のうち、**97万 m^3 を掘削済み**
- このうち**73万 m^3 を手稲山口受入地**に運搬
- 手稲山口受入余裕量（令和8年7月1日現在）
- ▶ 受入容量約83万 m^3 －対策土運搬量73万 m^3 ＝約10万 m^3

3. 新幹線工事に伴う発生土

(4) 札幌工区の対策土想定区間及び地質状況



- ❑ 砂礫層の掘削では「加泥材」を添加する場合が多く、必要性について調査中である。
- ❑ シールド工事では地盤からの力に対して、バランスをとりながら安全に掘削する必要がある。
- ❑ 砂礫層では間隙が多いため、地盤を均一に押し返すバランスが崩れてしまうおそれがある。
- ❑ 掘削土に加泥材を添加し粘土状にすることで、隙間のない土の壁を作り、地盤の力に抵抗する。



4. 手稲山口地区における地域振興

□ 手稲山口地域協議会

手稲山口地区での事業の推進に当たり、地区住民等による手稲山口地域協議会を設置し、工事状況の確認、受入地の跡地活用検討、地域振興のための課題共有等を行っている。

□ 直近の動向と今後の見通し

- 地域協議会では、受入地活用に向けた思いや活用のイメージを「受入地活用構想」として整理して、札幌市に対して提案。
- 現在、受入地の利活用について、民間事業者の参画の可能性を探るためのサウンディング調査を実施中



【地域協議会「受入地活用構想」】

	R7	R8	R9	R10	R11以降
受入地の整備	対策土の搬入			上面シート敷設・覆土	受入地整備
受入地の利活用の検討	受入地活用構想検討 民間企業ヒアリング	活用構想決定 受入地整備方針検討 オープンサウンディング ※関心のある企業を広く募集	整備方針決定 オープンサウンディング(2次) ※事業条件を整理	官民の役割決定 受入地活用に向けた調整 事業者公募	整備・活用 事業者決定

【今後の想定スケジュール】

□ マルシェイベント in 手稲山口（仮）

手稲山口の特産品の魅力等に加え、北海道新幹線札幌延伸に伴う効果や利便性を発信・PRすることを目的としたイベントを開催予定。

- 主 催：手稲山口地域協議会
- 開催日：令和8年9月上旬（予定）



【マルシェイベントイメージ】

5. 広報啓発活動・要望活動

(1) 広報啓発活動

【令和7年度の実績】

ロ イベント会場でのブース出展

- ・北海道新幹線情報発信・工事情報等パネル掲示
- ・北海道新幹線に関するクイズ・ゲーム実施
- ・啓発品配布等により札幌延伸をPR

● ドキドキFOODパーク2025 (R7.6.14～16)

場所：札幌パークホテル特設会場

● 環境広場さっぽろ2025 (R7.7.26～27)

場所：大和ハウスプレミストドーム

● ジャパンモビリティショー札幌2026

(R8.1.23～25)

場所：大和ハウスプレミストドーム

※鉄道・運輸機構と連携して、新幹線グランクラス
シートの体験展示を実施



【グランクラスシートの展示状況】

【北海道新幹線新幹線開業10周年イベント】

● はこだて&あおもり つながるフェスティバル (R8.3.21～22)

場所：新函館北斗駅前イベント広場

※沿線自治体と連携してブース出展

左記パネル掲示、啓発品配布のほか、
沿線地域魅力発信のため自治体PRパンフ
レット・グッズを配布



【出展ブース及びイベント開催状況】

【令和8年度の取組】

以下のイベント会場等でPR活動（ブース出展、
啓発品配布、パネル展示等）を実施

- 花フェスタ札幌 (R8.6.27～7.5)
- 環境広場さっぽろ2026 (R8.8.1～8.2)
- 鉄道フェスティバル in 北海道 (R8.9.19)
- トミカ・プラレールフェスティバル in SAPPORO (R8.12.27～R9.1.11)

5. 広報啓発活動・要望活動

(2) 要望活動

【北海道新幹線建設促進期成会】

□ 構成員：北海道、沿線自治体、経済団体等

R8.1.17 第3回北海道新幹線札幌延伸推進会議

□ 要望先：国土交通省鉄道局、鉄道・運輸機構

R8.5.26 国土交通省への要望

□ 要望先：国土交通副大臣



【R8.5.26 国土交通省への要望】

【札幌市の要望】

R8.6月 令和9年度札幌市重点要望

□ 要望先：国土交通省、財務省、北海道選出国會議員

□ 要望事項

- 開業遅れに伴う各方面への影響の最小化に向けた、幅広い分野での包括的な支援。
- 開業時期の早急な明示と、早期完成。
- 建設財源の確保による地方負担の軽減と、新たな地方負担を発生させないための措置及び負担額の見通しの早急な提示。
- 青函共用走行区間等における新幹線高速走行の早期実現。

【今後の予定】

R8.11月（予定）北海道新幹線建設促進関係自治体連絡協議会要望

□ 要望先：国土交通省、他関係省庁、鉄道・運輸機構、北海道選出国會議員

□ 構成員：沿線自治体（会長は札幌市長）